

# 大野北地域まちづくり提言書



平成20年5月

大野北地域まちづくり会議

## 提言にあたって



大野北地域は、戦前には軍都の計画の中において、兵器学校等が配置され街が形付けられました。その後の発展により淵野辺駅を中心として町が自然派生的に広がりそして形成されていきました。そのため道路網が不自然な繋がりや、狭い地域もあるのが現状です。

また、横浜線、あるいは国道16号線により地域が分断されていることにより、地域の一体化が出来にくいのが否めません。

しかし、この地域においての特徴は、淵野辺駅北口側を中心として商店街が広がり、奥に企業や大学、そして住宅街と、南口側では、市立図書館、鹿沼公園など、さらに大野北地域と隣接する場所には最寄り駅を淵野辺駅とする宇宙科学研究本部、市立博物館などがあり、市内でも特異な文化的社会資源を持っております。

この大野北地域の持つ各種の課題を整理し、不足する社会基盤を整備したうえで、文化的社会資源を生かしたまちづくりを進めることにより、地域の一体感が生まれ新たなまちづくりが進むのではないのでしょうか。

住民にとっての住みよいまちは、このまま住み続けていきたいまちであるかどうかです。行政が出来る範囲は、限られてもいます。安全、安心は、地域住民の信頼関係、規範、ネットワークなどの社会関係資本の充実がもたらすものです。これは、住民のなかで作り上げていかなくてはならないこれからの重い問題でもあります。

住民も、行政も、住みよいまちを願って、出来ることに力を注ぎ続けることが、まちの発展であり、住民の成長であります。

この提言書は、大野北地域の問題点を洗い出し、今後の大野北地域の発展を進めるため行政への課題を抽出したものであります。地域の具体的な施策案については早期の実現を望みます。長期的プランについては、施策を決定するに当たっては、地域の意向を十分汲み取るため、地域住民と行政の討議の場を作るべきかと考えます。

この提言書は、大野北地域の発展を望む人達が集まって、作りあげたものです。この作業が、決して無駄な時間でなかったことを、この提言書が、地域の発展に寄与できることを願ってやみません。

平成20年5月

大野北地域まちづくり会議

会長 神崎 利秋

委員 一同

# 目 次

1	地域の現況と課題 .....	1
2	重点提言項目 .....	2
	(1) 淵野辺駅周辺を活気ある拠点にする	
	(2) 矢部駅周辺のまちづくりをすすめる	
	(3) 地域の特色をいかしたまちをつくる	
	(4) 安心して暮らせるまちをつくる	
	(5) 自然に親しめるまちをつくる	
3	分野別の提言 .....	11
	(1) 安全・安心	
	(2) 交 通	
	(3) 健康・福祉	
	(4) 自然・環境	
	(5) 市民活動・交流	
	(6) 産業・観光	
	(7) その他	
4	提言図 .....	16
 (付属資料)		
	※会議経過・会則・委員名簿 .....	17

## 1 地域の現況と課題

### ◆大野北地域の現況◆

本地域は、淵野辺駅と矢部駅を中心として住宅地が広がる交通利便性の高い地域です。淵野辺駅周辺には、出張所、公民館、図書館などの公共施設とともに、従来から立地する各大学に加え、近年では、青山学院大学相模原キャンパスや桜美林大学プラネット淵野辺キャンパスが開校し、より若者がにぎわうまちになりました。

本地域の人口は、市内22地域中4番目に多く、約5万7千人が住むまちです。地域の中心である淵野辺駅の1日あたりの乗降客数は約7万2千人にのぼり、乗り換えのない駅としては、JR横浜線全線で1番の利用規模となっています。また、図書館や国際交流ラウンジといった全ての市民を対象とする施設を持っており、地域住民にとどまらず多くの人々が活動する、限りない可能性を秘めたまちといえます。

将来のまちづくりにあたっては、地域の活性化に向けて、上記の特性を活かすことや、相模総合補給廠の返還を見据えたまちのあり方などについての取組みが求められます。

### ◆地域の伸ばすべき点と課題◆

本提言書をまとめるに当たって地域の「良い点」と「悪い点」について話し合いました。主なものは以下のとおりです。

良い点	悪い点
<ul style="list-style-type: none"><li>・交通の便がよい</li><li>・駅周辺に特色ある公共施設がある</li><li>・鹿沼公園など素晴らしい公園がある</li><li>・大学など文教施設が多い</li><li>・学生が多く、街に活気がある</li><li>・駅前に生鮮食品を扱う商店街がある</li><li>・農地が多い</li><li>・隣接する自治会との交流が比較的盛んである</li><li>・川があり、自然がある</li><li>・留学生との交流が活発である</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・駅の規模が利用人口の割に小さい</li><li>・駅南口の公共施設が老朽化している</li><li>・駅南口に生活に密着した施設や商業施設が不足している</li><li>・駅周辺に公共施設が点在していて、非効率である</li><li>・公共駐車場がない</li><li>・基地により近隣地域と分断されている</li><li>・市民活動をする場所が不足している</li><li>・地域住民が交流する場所や機会が不足している</li><li>・渋滞の解消ができていない</li><li>・防犯・防災の体制が十分ではない</li></ul>

## 2 重点提言項目

大野北地域では、次の5点を重点的な提言項目とします。

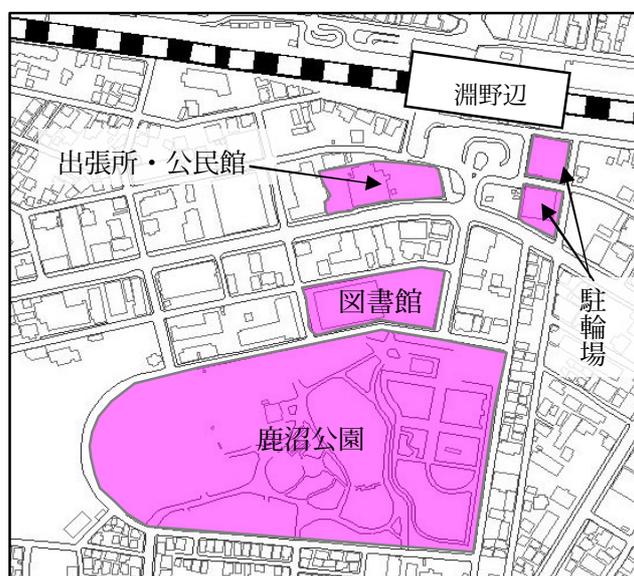
### (1) 淵野辺駅周辺を活気ある拠点にする

#### ○駅南口全体の公共的な機能のあり方を検討する

淵野辺駅南口周辺は、出張所や公民館、図書館といった公共施設があり、従来から市民の活動の場や学習の場として親しまれています。しかしながら、地域コミュニティの拠点である公民館は、利用団体が750を超え、施設が手狭な状況にあります。図書館においては、建設から33年が経過し、老朽化への対応が課題となっていますが、高齢社会における学習機会への関心の高まりなど新たなニーズが生まれてくることが予想されます。

こうした中、これら公共施設は低層建築で点在しているため、効率性の面からも、無駄を省き集約化・高層化を検討すべきであると考えます。

また、鹿沼公園は、私たち地域住民の憩いの場として親しまれていますが、老朽化への対応とともに、園内が暗いなど風紀の面でも課題があり、今後は児童交通公園も含めた機能の見直しをする必要があると考えます。この公園



淵野辺駅南口には公共施設が低層で点在

は、駅前に立地していることや、他の公共施設と隣接していること、また大学が多く立地しているといった他の地域にはない特徴をいかした特色ある公園にするべきです。

そこで、出張所、公民館、図書館に、地域のシンボルである鹿沼公園も含めた淵野辺駅南口周辺全体の公共機能のあり方について総合的に検討するべきであると考えます。



鹿沼公園

### ○拠点性を伸ばす方策を検討する

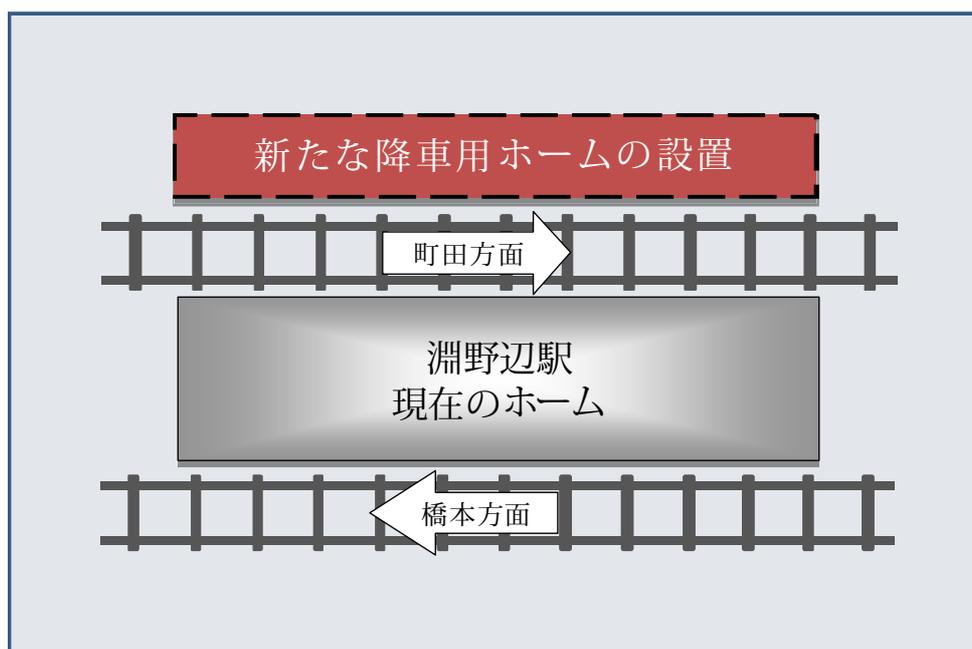
青山学院大学相模原キャンパスや桜美林大学プラネット淵野辺キャンパスの開校などによって、淵野辺駅の利用者数は増加傾向にあり、平成18年度現在、1日あたりの乗降客数は7万2千人を超え、市内では橋本駅、相模大野駅に次ぐ利用規模となっています。しかしながら、駅そのものの規模がそれに見合っておらず、ホームが人で溢れ危険な状況にあります。また、駅南口周辺に多くある公共機能と、商業や遊びの要素などの民間の機能との結びつきが弱いため、駅の利用者数が比較的多いという長所が活気ある交流に生かしきれていないのではないかと考えます。周辺に駐車場が不足しているのもその一因と思われます。

また、淵野辺駅北口周辺は、大学キャンパスの立地後数年経った今も若者が集うような機能に乏しく、にぎわいを生むための方策を考える必要があります。

そのほか、J R 横浜線快速の淵野辺駅への停車や、淵野辺駅と相模大野駅方面を結ぶ公共交通の確保が必要です。

## 方策例

- ・ 淵野辺駅南口に点在する公共施設を集約し、民間の機能と複合する建物を建設し、それにより空いた用地を駐車場整備等の用途にあてる。
- ・ 淵野辺駅の現在のホームと並行した降車用ホームを北口側に設置し、利用者の動きを分散させる。
- ・ 淵野辺駅北口周辺の高度利用を図る。
- ・ 鹿沼公園を、明るく、みんなが集える特色ある公園にする。
- ・ 淵野辺駅へ新交通システムを乗り入れる。
- ・ J R 横浜線快速の淵野辺駅への停車

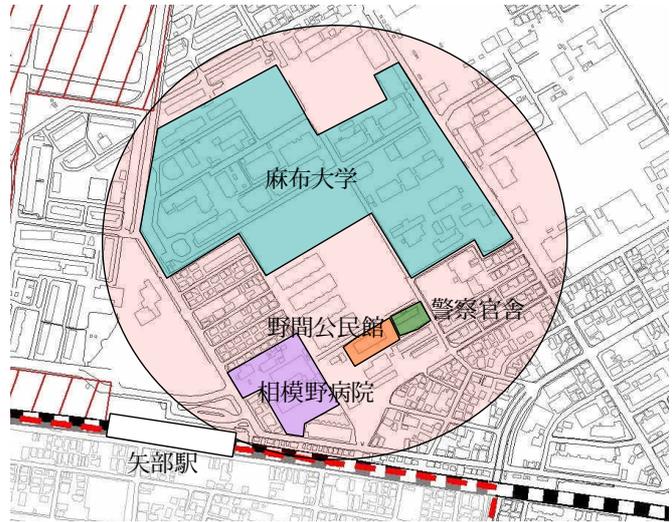


## (2) 矢部駅周辺のまちづくりをすすめる

### ○基地返還を見据えた将来のまちを考える

相模総合補給廠の一部返還の実現化に向けた取組みが始まったことによって、本地域においては、現在基地によって分断されている矢部駅北口と相模原駅北口の結びつきなど、まちづくりに様々な可能性や影響が生まれてきます。また、現在進めている矢部駅のバリアフリー化により、利便性の向上が図られます。

こうしたことを踏まえ、矢部駅周辺の将来のまちづくりについて、周辺の関係者全体で議論を重ねる必要があります。



矢部駅周辺の一体的なあり方検討が必要



矢部駅北口から相模原駅北口方面を望む

### ○渋滞箇所の解消を進める

本地域は市内でも都市化が進んでおり、交通量が多く全般に渋滞を生みやすい地域といえます。特に、JR横浜線を跨ぐ矢淵陸橋の朝・夕の混雑や上矢部信号付近の道路（市道上矢部24号、市道淵野辺境橋）など、慢性的な渋滞を起こしている箇所があります。渋滞は、市民生活の利便性を失うだけでなく、環境や災害時への備えなどの観点からも、解消に向けた取組みをする必要があります。

## 方策例

- ・麻布大学、野間公民館、警察官舎、相模野病院などの既存施設に加え、例えば市立公民館のような新たな公共施設を含めた矢部駅周辺全体のあり方について、住民や行政などの関係者が一体となって「考える会」をつくる。
- ・基地返還に伴い、横浜線を横断する新たな道路の整備を行う。
- ・基地返還に伴い、相模総合補給廠南側に横浜線に沿った道路の整備を行う。
- ・慢性的な渋滞が発生する箇所を中心に、緩和策を講じる。

### (3) 地域の特色をいかしたまちをつくる

#### ○大学の力をいかす

地域の活性化を考える上で、既にある資源に目をつけることは大切なことです。

これまでも、大学図書館やオープンキャンパスなど市民利用に供する開放を行っています。また、学生市民交流フェスティバルである「淵野辺ボンバイエ」、学生が商店街を盛り上げている「ナイトバザール」、地域の子どもの遊びなど、学生自身による交流が行われています。

少子高齢化が進む中で、“いつも学生がいる”ことは、このまちの大きな特色です。今後は、大学や学生と地域が自然に溶け込みあう街をめざし、互いにプラスになる活動や仕掛けをすることが重要です。

## ○商店街の力をいかす

本地域には、市内でも少ない生鮮三品（肉、魚、野菜）を扱う店がそろそろ商店街があるなど、その活気やにぎわいは私たちの大切な財産です。しかしながら、こうした商店街の魅力や強みが十分いかされているとは言えません。

商店街をきっかけに、まちのにぎわいを取り戻すことは、地域の活性化に向けた大切な視点であると考えます。



商店街、学生、住民と一緒に盛り上げている「ふちのべ銀河まつり」

## ○特色ある施設をいかす

本地域とその周辺には、さがみはら国際交流ラウンジや博物館、宇宙科学研究本部相模原キャンパスがあるなど、市内でも特色ある施設があります。これまでも地域住民の利用や活用がされていますが、学習の場、活動の場としてこれ



国際交流ラウンジ

らの施設が持つ特性をより活用できるよう考える必要があります。

## 方策例

- 大学が持つ人、施設などの有効な資源・強みを活かし地域との連携を進める。
- 高齢者向けの工夫をするなど、地域住民の交流が生まれるような商店街づくりを進める。
- さがみはら国際交流ラウンジを使った国際理解や交流などの取組みを進め、相模原の国際交流の拠点として地域内外の人が集まり楽しめるような機会を創出する。

## (4) 安心して暮らせるまちをつくる

### ○生活に身近な道路の安全を確保する

地域内には、補給廠ぎわの通学路が狭いなど危険な箇所があります。特に上矢部地区では、全般的に道路が狭いだけでなく、町田市方面への交通量や町田街道と並行する生活道路の抜け道的な利用が多いため、日常生活を送る上で危険な状況にあります。高齢者の



上矢部地区は狭い道路が多い

増加が見込まれる今後は、住民に身近な道路の安全確保がますます重要な課題であると考えます。

### ○防犯・防災の機能を強化する

住民が安心して暮らすためには、日ごろから、犯罪をなくすことや災害に備えることが重要です。そのためには、地域住民による防犯活動を充実させ

るほか、街灯や防犯灯が不足する箇所の解消を進める必要があります。また、道路が狭く消防車が入れない場所や消火栓の少ない箇所、避難場所の確保に課題がある地区といった防災上の課題の解決に向けた取組みをすることが必要です。

#### 方策例

- ・自動車、歩行者などの様々な交通手段に耐えうる安全な歩道や生活道路をつくる。
- ・公園や神社、線路沿いなどの暗い箇所を中心に街灯や防犯灯を設置する。
- ・近隣で犯罪が起きた時の迅速な情報提供など、被害の拡大を防ぐ手段を充実する。
- ・上矢部地区など、生活道路の狭い地域の消防体制の充実や一時避難場所の確保などを図る。
- ・境川の水を活用した消防水利を確保する。

### (5) 自然に親しめるまちをつくる

#### ○境川の自然とふれあえるようにする

貴重な自然である境川は、散歩などの場として近隣住民から親しまれていますが、休憩場所がないなど憩いの場としては足りないことがあります。境川が住民に親しまれる憩いの場となれば、ここが住民どうしの接点になることも期待できます。このため、より親しめる境川とするための活用方法を考える必要があります。



境川

## ○自然の中で遊べる機会をつくる

本地域は、都市化が進んでいる地域である一方、日常生活で自然と触れる機会が少なく、特に子どもの遊び場が減っていることが懸念されています。

将来を担う子どもたちが健やかに成長するよう、自然の中で自ら考え遊ぶような場所が必要です。

### 方策例

- 境川の遊歩道（未整備箇所）や休憩場所を整備する。
- 境川沿いのフェンス未整備箇所を解消する。
- 「冒険遊び場」など、地域の人たちも集え、子どもの創造的な育ちを助けるような遊びの機能を検討する。

### 3 分野別の提言

重点提言項目を含め、7つの分野について次のことがらを提言します。

(下線部分は「2 重点提言項目」で取り上げているもの)

#### (1) 安全・安心

- 淵野辺駅のホームの安全性向上（利用者増への対応）
  - ・ 現在のホームと並行した上り線降車用ホームの設置
- 狭い道路の安全性の向上
  - ・ 安全な通学路の確保
  - ・ 歩道、自転車道の確保
- 防犯機能の向上
  - ・ 街灯・防犯灯の設置（公園、暗い道路など）
  - ・ 相模原独自の防犯予知体制の整備
- 防災機能の向上
  - ・ 身近な避難場所の確保
  - ・ 道路の狭い地区に対応する消防体制の整備

#### (2) 交通（道路・鉄道・バス・自転車）

- 道路交通環境の向上
  - ・ 基地返還に伴う、横浜線を横断する新たな道路の整備
  - ・ 基地返還に伴う、相模総合補給廠南側の横浜線に沿った新たな道路の整備
  - ・ 慢性的な渋滞が発生する箇所の渋滞緩和策  
（矢渕陸橋、上矢部交差点、淵野辺駅入口交差点、青山学院大学入口交差点など）

- ・(都) 淵野辺駅山王線の整備
- 放置自転車対策の強化
- 公共交通の利便性の向上
  - ・相模大野駅から淵野辺駅へのルート確保  
(新交通システムの淵野辺駅への乗り入れ)
  - ・J R 横浜線快速の淵野辺駅への停車
  - ・市役所方面へのバス交通整備

### (3) 健康、福祉

- 障がい者がいきいきと暮らせる環境づくり
  - ・市立の障がい者授産施設の設置
- 高齢者が地域で活動できる環境づくり
  - ・既存施設（児童館など）の活用による高齢者が集う機会の創出
  - ・高齢者施設の整備（中学校区単位で）
  - ・ワンコインバスなどの市内循環手段の検討
- 子育て環境の向上
  - ・子どもの遊び場の創出（広場、冒険遊び場など）
  - ・ファミリーサポートセンター等の子育て支援機能の拡充
  - ・児童クラブ・児童館などの預かり機能の見直し  
(受入れ時間帯や年齢など)
  - ・中学生の放課後の居場所づくり
- 医療・救急体制の強化
  - ・相模野病院の産婦人科の強化
  - ・高齢者医療体制や救急医療体制の確立と市民への周知

#### (4) 自然・環境

##### ○境川の活用

- ・ 遊歩道（未整備箇所）や休憩場所の整備
- ・ フェンス未整備箇所の解消

##### ○自然とふれあえる場づくり

- ・ 自然の中で遊べる場づくり（冒険遊び場など）

#### (5) 市民活動・交流

##### ○活動・交流場所

- ・ 特色ある施設の活用（大学施設、国際交流ラウンジなど）
- ・ 住民が集まれる場の確保（公園・広場の確保、鹿沼公園の見直し）
- ・ お年寄り、子供が交流する場の確保
- ・ 旧県立職業訓練校の施設の活用
- ・ 空き店舗の有効利用
- ・ 自転車道を使った施設や公園の連携

##### ○活動・交流の機会

- ・ 地域と学生の連携
- ・ 隣接する自治会との協力（防犯・交通安全など）
- ・ 留学生との交流
- ・ 見知らぬ人達同士の声かけ運動の実施
- ・ 大野北地域全体でのイベントの実施

## (6) 産業・観光

### ○商業の活性化

- ・ 特色をいかした商店街づくり（高齢者にやさしい商店街など）
- ・ 顔の見える商店街づくり

### ○農のあるまちづくり

- ・ 地域特産物の創出

### ○にぎわいづくり

- ・ 歩きまわれるまちづくり
- ・ 大きなイベントができる会場の設置

## (7) その他

### ○淵野辺駅周辺のまちづくり

- ・ 南口に低層で点在する公共施設（出張所、公民館、図書館）の集約化・高層化と民間機能との複合
- ・ 駅周辺の駐車場整備
- ・ 北口周辺の高度利用
- ・ 鹿沼公園の特色ある公園に向けた見直し
- ・ 南口への生活用品の商店整備
- ・ 南口へのふれあい広場整備
- ・ 図書館内会議室の利便性向上
- ・ 鹿沼公園及び図書館駐車場の利用適正化
- ・ 北口への駐輪場整備
- ・ 駅ビル化
- ・ 駅エレベータの自転車利用禁止
- ・ 北口デッキへの屋根の設置

- ・北口デッキの有効活用

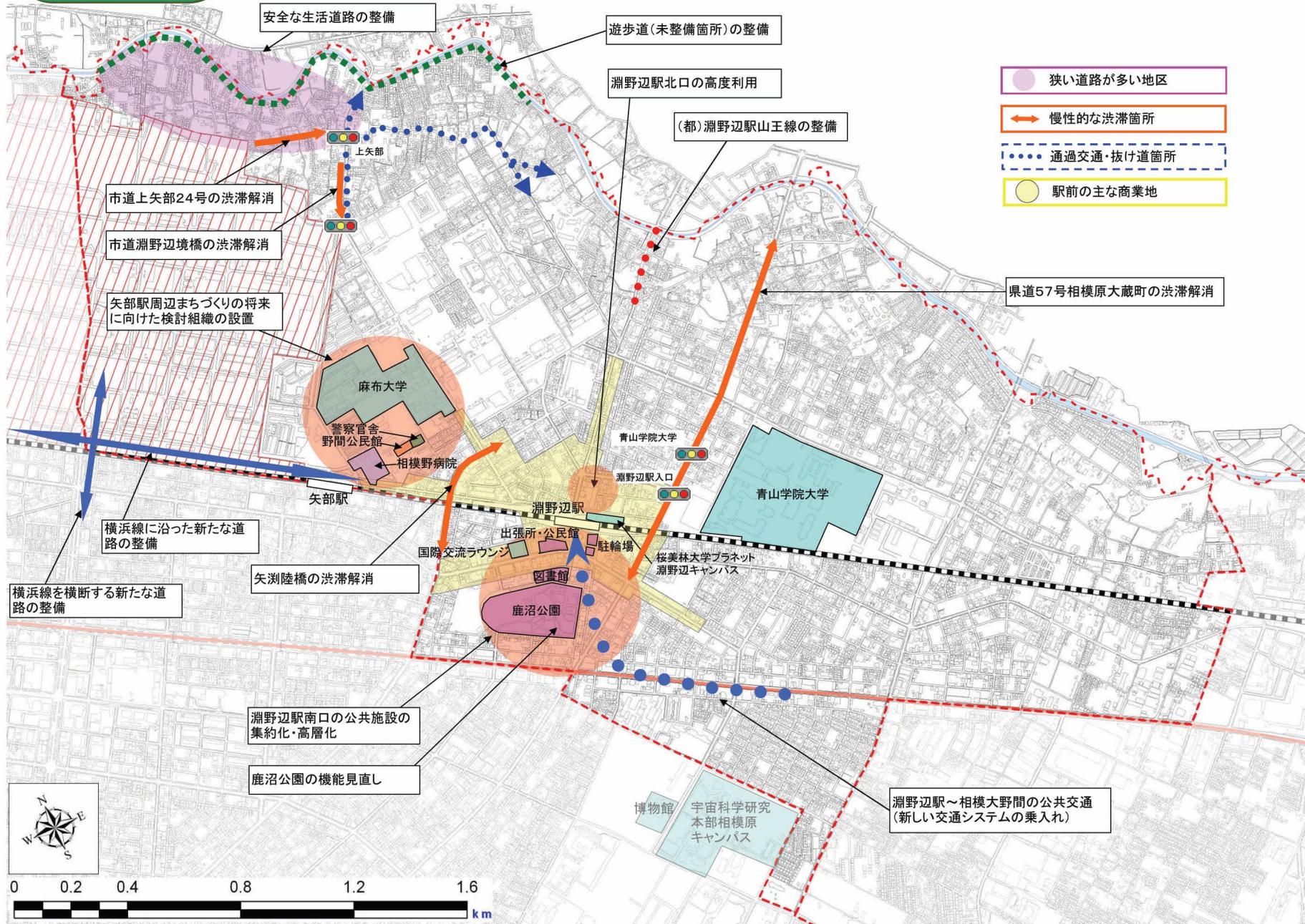
○矢部駅周辺のまちづくり

- ・麻布大学、野間公民館、警察官舎、相模野病院などの公共公益施設を含めた矢部駅周辺全体のあり方を「考える会」の設置
- ・駅ビル化

○その他

- ・日本一のものをつくる
- ・市役所を淵野辺に移転
- ・陸上装備研究所の他所への移転
- ・住民によるまちづくり手法の活用

# 4 提言図



付属資料)

○ 会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成19年 10月1日(木)	<b>【第1回地域まちづくり会議】</b> ○会則(案)について ○会長、副会長の選出 ○新しい総合計画及び新都市計画マスタープランについて ○地域まちづくり会議スケジュール・提言イメージについて ○会議の進め方について ○大野北地域の現況について	22名
10月30日(火)	<b>【第2回地域まちづくり会議】</b> ○第1回地域まちづくり会議の結果について ○会議の進め方について ○地域の伸ばすべき点と改善すべき点について① ○意見発表	19名
11月19日(月)	<b>【第3回地域まちづくり会議】</b> ○第2回地域まちづくり会議の結果について ○地域の伸ばすべき点と改善すべき点について② ○意見発表 ○事務局からの資料提供(将来人口推計について)	18名
12月10日(月)	<b>【第4回地域まちづくり会議】</b> ○第3回地域まちづくり会議の結果について ○事務局からのお知らせ(総合計画、都市計画マスタープランの策定スケジュール変更について) ○地域の伸ばすべき点と課題について③	16名
平成20年 1月29日(火)	<b>【第5回地域まちづくり会議】</b> ○第4回地域まちづくり会議の結果について ○地域の伸ばすべき点と課題について④(重点項目について)	17名
2月18日(月)	<b>【第6回地域まちづくり会議】</b> ○第5回地域まちづくり会議の結果について ○重点項目について ○事務局からのお知らせ(シンポジウムの案内)	19名
3月19日(水)	<b>【第7回地域まちづくり会議】</b> ○第6回地域まちづくり会議の結果について ○提言書(素案)について ○今後のスケジュールについて	16名
4月14日(月)	<b>【第8回地域まちづくり会議】</b> ○第7回地域まちづくり会議の結果について ○提言書(素案)について ○地域説明会について	20名
5月11日(日)	提言書(素案)の地域説明会	委員 19名 参加者42名
5月11日(日)	<b>【第9回地域まちづくり会議】</b> ○提言書について	19名

## 大野北地域まちづくり会議 会則

### 名称)

第1条 本会は大野北地域まちづくり会議（以下「まちづくり会議」という。）と称し、事務局を相模原市企画財政局企画部企画政策課に置く。

### 目的)

第2条 まちづくり会議は、相模原市（以下「市」という。）の新しい総合計画及び新都市計画マスタープランの策定に際し、大野北地域のまちづくりの方向性等について検討した結果を提言書としてまとめ、市へ提言するとともに、連帯感のある住み良い地域社会を実現していくことを目的とする。

### 構成及び任期)

第3条 まちづくり会議は、大野北出張所管内に在住、在学又は在勤する者のうち、別表に掲げる者をもって構成する。

2 構成員の任期は、平成21年3月31日までとする。

3 構成員に欠員が生じ、構成員を補充する必要があると認められる場合には、後任者を選定する。

### 会長及び副会長)

第4条 まちづくり会議に、会長1人及び副会長2人を置くものとし、構成員の互選により決定する。

2 会長及び副会長の任期は、まちづくり会議の構成員の任期によるものとする。

3 会長は、まちづくり会議を代表し、会務を総括する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

### 会議)

第5条 まちづくり会議の会議は、会長が招集する。

2 会議の議長は、会長が務めるものとする。

3 会議は、構成員の半数以上の出席をもって開催することとする。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に諮り、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

### 公開)

第6条 会議は原則として公開とし、傍聴について必要な事項は別に定める。

### 地域説明会)

第7条 大野北地域のまちづくりについての提言書をまとめるにあたっては、まちづくり会議が主体となって、地域住民から幅広く意見を求めることを目的とした地域説明会を開催する。

### 委任)

第8条 この会則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

### 附 則

この会則は、平成19年10月1日から施行する。

## ○委員名簿 会則第3条関係)

H19.10現在

No		氏 名	所 属 等
1	会 長	神崎 利秋	大野北地区自治会連合会
2		福田 愼一	大野北地区自治会連合会
3	副会長	山本 留男	大野北公民館
4		河本 博	大野北地区青少年育成協議会
5		桑原 均	共和中学校PTA
6		西澤 省吾	青山学院大学相模原キャンパス(企画・渉外グループ)
7		佐藤 良一	桜美林大学(大学事務局)
8		平田 英世	麻布大学(管財課)
9		河本 耕生	青少年指導員
10		岡田 実	体育指導委員
11		河本 一子	大野北地区民生委員児童委員協議会
12		薄井 英子	大野北地区健康づくり普及員協議会
13		益山 美智子	大野北地区ボランティアグループ(福祉グループ「輪」)
14		松岡 裕	社会福祉法人 さがみ愛育会(淵野辺保育園)
15	副会長	藤原 長俊	淵野辺地区まちづくり推進連絡協議会
16		茅 明夫	淵野辺地区商店会会長連絡協議会
17		藤岡 博	淵野辺駅南口商栄会
18		渡邊 一雄	富士工業株式会社(総務課)
19		小峰 辰正	上矢部東部みどり組合
20		早坂 暢畝	さがみはら国際交流ラウンジ
21		座間 千代子	公募委員
22		小橋 洋子	公募委員

## 【事務局】

青井 裕司、石原 朗 &lt;企画政策課&gt;

大森 珠美 &lt;都市計画課&gt;

吉田 諭、由森 勇、庄島 徹 &lt;大野北出張所&gt;

高橋 雅広 &lt;さがみはら都市みらい研究所&gt;

## 会議の風景



## 地域説明会

